

## 平城京右京三条一坊二坪・朱雀大路の調査 (平城第577次)

奈良文化財研究所では、国土交通省が進めている史跡朱雀大路跡の整備にともなう発掘調査を、2015年から続けてきました。今回の調査区は、奈文研ニュースNo.64でも紹介した平城第578次調査区の、南方約150mの位置にあたります。平城京右京三条一坊二坪における、朱雀大路西側溝と築地塀の位置や規模を確認することを目的に、発掘をおこないました。調査期間は2016年12月2日から翌年1月31日まで、調査面積は120㎡です。

調査の結果、東西の両肩に木の杭列をともなう、幅3.1～3.4m、深さ1.0～1.1mの南北方向の溝を検出しました。この溝が朱雀大路西側溝とみられ、これまでの調査区で確認された西側溝の規模とほぼ同一です。この溝のさらに西側には、幅約1mの平坦な犬走りをはさんで、きめの細かい土を積んだ築地塀の基礎とみられる土層を、幅4.8～5.0mの範囲で確認しました。さらに、築地塀より西側の坪内についても、南北4.5m×東西5mの範囲を発掘しましたが、顕著な遺構はみつきませんでした。

また、この溝の中からは、木簡や人形、和同開珎や土器・瓦等の奈良時代の遺物も数多く出土しました。特に、木簡の中には「養老三年(719)」の紀年をもつものがみつき、この溝の時期を知る手がかりになります。

本調査を通じて、平城宮朱雀門の正面周辺の様相が、一層あきらかになりました。朱雀大路跡の整備にともなう発掘調査は、これで一段落となります。

(都城発掘調査部 庄田 慎矢)



検出した朱雀大路西側溝と朱雀門(南から)